

報告

第3回福祉住環境サミット

横浜市立脳卒中・神経脊椎センター 熊木 由美子

1. はじめに

2016年3月5日・6日、明治学院大学白金キャンパスで行われた、第3回福祉住環境サミット&ウェルビーイングフェアに参加した。サミットの概要について、感想を交えて報告する。

2. 概要

今回のサミットは、「個人を守る住環境から、コミュニティと共存できる住環境へ～今、私達が考え・行動すべきこと!～」をテーマとして開催された。プログラム・資料集の表紙には、『「いつまでも自分らしく暮らす」そんな夢を実現するためには個人を守る環境から、コミュニティと共存できる環境へ・・・自分は、どう考え・動けばいいのか?」の文字が躍っていた。このテーマのもと、具体的な目的として、以下の3点が挙げられていた。

(1)「福祉住環境に関する情報の共有化と産・官・学・民・NPOのマッチング」テーマに対してNPO、企業、団体、個人が培ってきた知識や情報、一定の成果指標を、地域や既存のカテゴリー(専門分野)の枠を超えて提供・共有することで新たな事業、活動の可能性をはかる。

(2)「人材の育成と生活者への啓蒙」誰もが地域で生活できる住まいの環境づくりを、トータル的に考えることができる『広義の福祉』の視点を持つ福祉住環境人材を育成する。また、生活者全般への福祉住環境とは、補填ではなく将来への投資であるとの考え方の啓蒙を図る。

(3)「全国的ネットワークの構築」アクトローカル・シンクグローバルの考えのもと、多くの地域事例を学び、様々の専門分野のスキルを体験・共有すること

ができる全国的ネットワークを構築する。

サミットの第1日目は、2つの基調講演、8つの分科会(地域包括支援、住環境整備、モビリティ・アクティビティ、住宅・暮らし方、認知症・生きがい、身体機能・疾病別、住まい方、いきいき高齢社会づくり)で各々の基調講演、パネルディスカッションが行われた。第2日目は、各分科会の報告とシンポジウム、各々の分科会での講演が行われた。

また、並行してウェルビーイングフェア「シニア層をはじめ、あらゆる年代の人々が、元気でいきいき暮らす(=well-being)ための『商品・サービス・仕組み』」などを、企業、団体、行政が一同に会して紹介する日本初の展示会が開催された。

3. 感想

多種多様な分野の専門家による、住環境についての様々な視点から講演や意見交換がなされており、暮らす個人によって、その人らしさや暮らしやすさがまったく違うということを改めて痛感し、たいへん刺激を受けた。

病院で勤務する理学療法士という立場からは、横浜市総合リハビリテーションセンターの渡邊慎一氏による「障害特性から考える住環境整備」の講演が、「今、私が考え・行動すべきこと!」を考えるきっかけになった。理学療法士として、障害のある方の身体的・精神的特性を知り、リハビリテーションを行う上で必要な知識や技術を高めることはもちろん、個人(御家族を含めて)のその人らしさや暮らしやすさを理解できるような人間性を深める必要性を感じた。今後も「当事者から教えていただく」という姿勢を持ち、関わる他の専門家と協働しながら、その人らしい暮らしやすい生活が実現できるように努めなければならないと、改めて感じる事ができた。

横浜市立脳卒中・神経脊椎センター
〒235-0012 横浜市磯子区滝頭1-2-1

【引用】第3回福祉住環境サミット&ウェルビーイングフェアプログラム・資料集、同ホームページ